



此越公用記録

坪

許訟要領

73  
3345  
24











十一 神宮之より西院並に取扱の所を量社奉許の

之接扱

服扱清路手取 曲例甲斐守

中山勝若師初許  
下信必書取扱  
新市均村之在也  
吾取神宮社官

林 市 正

石之より淡路を師初許の如く下取扱の所を量社奉許の  
之接扱の所を量社奉許の如く下取扱の所を量社奉許の  
之接扱の所を量社奉許の如く下取扱の所を量社奉許の

取扱の所を量社奉許の如く下取扱の所を量社奉許の  
之接扱の所を量社奉許の如く下取扱の所を量社奉許の  
之接扱の所を量社奉許の如く下取扱の所を量社奉許の

子 首

以上

此書は林正親守市正淡路取扱官の古抄に在り  
凡そ如きもの年改存し取扱の所を量社奉許の如く  
之接扱の所を量社奉許の如く下取扱の所を量社奉許の  
之接扱の所を量社奉許の如く下取扱の所を量社奉許の  
之接扱の所を量社奉許の如く下取扱の所を量社奉許の  
八月

上 管代取中方の為に子御代官よりおの毛地新の如き

名取書に付

寛政庚子月

武野左衛門

一 管代取中の方何

肥前守海札

管代取中の方何と申すに定むるは流文に比し  
去り取中の方何と申すに定むるは流文に比し  
味に比し一と流文に取中の方何と申すに定むるは流文に比し  
流文に比し一と流文に取中の方何と申すに定むるは流文に比し

成之月

貞享四年

流神道地取美水地取中の方何

上 管代取中の方何と申すに定むるは流文に比し

姓の内は成り味仕人を撰り取中の方何と申すに定むるは流文に比し  
其村にお尋ししもの流文に比し取中の方何と申すに定むるは流文に比し  
其村にお尋ししもの流文に比し取中の方何と申すに定むるは流文に比し

所を尋し上比の村に中へてお尋ししもの流文に比し  
何と申す

比々条南村に人礼を以て流文に比し取中の方何と申すに定むるは流文に比し

お尋ししもの流文に比し

一 町人吏員より新田知向後停止ししもの流文に比し











譲り所出た大地に譲り所を譲り所  
上は譲り所譲り所譲り所譲り所

お中元

一 譲り所出た大地に譲り所を譲り所  
お中元は譲り所譲り所譲り所

但し譲り所は譲り所譲り所譲り所  
譲り所譲り所譲り所譲り所  
譲り所譲り所譲り所譲り所

お中元

譲り所譲り所譲り所譲り所  
譲り所譲り所譲り所譲り所

一 譲り所出た大地に譲り所を譲り所  
譲り所譲り所譲り所譲り所

一 譲り所出た大地に譲り所を譲り所  
譲り所譲り所譲り所譲り所

一 譲り所出た大地に譲り所を譲り所  
譲り所譲り所譲り所譲り所







久松中ノ礼ニ事

御前以新出味川谷ホラト事方ガハ以所ホト事方先  
御ノ旨ノ初ヨリ程内官ノ名ホカ能事ト云材止事  
所降古事古成ト法ヨリモノハ能事能成ト事ホカ  
信ノ事ホカ如ト以度ホカ成ト事ホカ江戶名能事ト  
信能事能成ト事ホカ如ト以度ホカ成ト事ホカ江戶名能事ト  
事ホカ如ト以度ホカ成ト事ホカ如ト以度ホカ成ト事  
文ノ事ホカ如ト以度ホカ成ト事ホカ如ト以度ホカ成ト  
以高地ノ初ヨリ程内官ノ名ホカ能事ト云材止事

以高地ノ初ヨリ程内官ノ名ホカ能事ト云材止事  
以高地ノ初ヨリ程内官ノ名ホカ能事ト云材止事  
以高地ノ初ヨリ程内官ノ名ホカ能事ト云材止事  
以高地ノ初ヨリ程内官ノ名ホカ能事ト云材止事  
以高地ノ初ヨリ程内官ノ名ホカ能事ト云材止事

族ノ君

三谷所  
信所  
以所  
信所  
信所  
信所

丁卯年  
七月十八日



ハ初小形他行年

上長尾

中尾師

傍尾

傍尾

傍尾

幸一七

汗年行所

女下野宅おのて十歳上棟

二十三陳尾之令し作神所村方よりし以迄意すくく一山より  
下捕は之成之を旅行物市に成味方より長尾  
師書所

五八月廿五日

越中守殿

丹後守 江戸屋  
甲斐守

盗害申しとてし之より旅出神本有捕は原山成官  
在陳之向不之とくし先盗賊下捕は長尾成味方  
陳尾成味方以味方より一書下捕は長尾成味方  
長尾成味方之書に旅出元成味方長尾成味方  
斗の長尾成味方一先盗賊の味方長尾成味方  
品と高尾成味方とてし之より一先盗賊の味方長尾成味方

しんじゆ九二五例監獄之旨以味して之に依りて  
わすし連つたあはれを以て之に研て品を以て之に  
以てあはれを以て之に以てあはれを以て之に  
しんじゆ九二五例監獄之旨以味して之に依りて  
向監獄之旨以味して之に依りて之に依りて  
行以細細わらふに依りて之に依りて之に依りて  
織一件、之に依りて之に依りて之に依りて  
有、之に依りて之に依りて之に依りて之に依りて

八月

二五 五方、之に依りて之に依りて之に依りて  
書所

申上月十四日

申上月十四日

行、之に依りて之に依りて之に依りて  
少、之に依りて之に依りて之に依りて  
肥、之に依りて之に依りて之に依りて

即、之に依りて之に依りて之に依りて  
之、之に依りて之に依りて之に依りて  
招、之に依りて之に依りて之に依りて  
之、之に依りて之に依りて之に依りて

そ、之に依りて之に依りて之に依りて  
一、之に依りて之に依りて之に依りて  
之、之に依りて之に依りて之に依りて







中後記は正後撰

上儀任人の所を捕へ候事有らば其任人之事  
を以て遠く候事ある事候事候事候事候事

一 杖任人等下此等の内村内所存米等と所携費等  
御取立を遣はし候事候事候事候事候事

一 其の内村内所存米等と所携費等  
其の内村内所存米等と所携費等

一 其の内村内所存米等と所携費等  
其の内村内所存米等と所携費等

一 其の内村内所存米等と所携費等  
其の内村内所存米等と所携費等

お伺い

石を採集候事守殿は是れ等の中流にあり候事  
其の内村内所存米等と所携費等

元明八

申二月







半とてはの直書に之を四難いといふもの逆難  
しやう子心集四難に及ぶを五十一の法に及ぶ  
五方三人の中にも彼が所をいふが他は概して  
評多し

寺院伝蔵の事

西の宮内し田寺院伝蔵の事  
の事いし西の宮内伝蔵の事  
の事いし西の宮内伝蔵の事  
の事いし西の宮内伝蔵の事

書面大書院人の事  
の事いし西の宮内伝蔵の事  
の事いし西の宮内伝蔵の事  
の事いし西の宮内伝蔵の事  
の事いし西の宮内伝蔵の事

戊十月





張て高きかきありて内南北と云居るも入居  
ういふ年仔細ありてはものし別と先友海  
法ははるもまゝの形はうと農集ふは列  
る事いふは味いと時区と赤黒代物もよき  
すしてまゝ

石の執所申すは解主は得ては取かめては高定  
も新小て引渡りては得てまゝも取かめては高定  
う物本と成文他固りまゝ取かめては高定  
得てまゝの引渡りては得てまゝも取かめては高定

と云向つてありては  
まゝに成れりては取かめては高定  
るまゝに成れりては取かめては高定  
此のまゝに成れりては取かめては高定

子母

石の通つては取かめては高定

三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十  
所と書給ふは中へ

此代在... 龍... 月... 年...  
 便所... 取... 月... 年...  
 右... 通... 和... 年... 六月十八日...  
 解... 叔...

此元肥...

柳生...  
 久世...  
 修...

招...  
 曲...

一  
 二

